

教えて！森田さん



食の安全・安心情報を科学的視点で、皆さんに分かりやすくお伝えするコラムです。

農作物の安定供給のために農薬は不可欠ですが、何となく健康や環境に悪そうと思われがちです。最近ではネオニコチノイド系農薬など新たな問題も出てきました。農薬の規制はどうなっているのでしょうか。

農薬は厳しく規制されている

農薬が嫌われる原因の1つに、戦後に化学合成品が普及しさまざまな問題を引き起こしたことが挙げられます。昭和30年代には毒性の高い農薬が使われて中毒事故が多発し、環境汚染も広がりました。

その後、国は農薬の規制を見直し、登録にあたって発がん性や遺伝毒性など、安全性に関するさまざまなデータをメーカーに求めるようになりました。現在は内閣府食品安全委員会が安全性審査を行い、それを基に厚生労働省が作物ごとに農薬の基準値を定めています。

この基準値を超えないように農薬の使用方法が定められ、生産者はルールを守って適切に使用し、記録もきちんとつけています。また、実際に基準値を超えていないかを調べる残留農薬検査も、公的機関や農協、生協などが行っています。検査で基準値を超えることはほとんどなく、安全性は厳しくチェックされています。こうしてさまざまな人々の努力によって、私たちのもとに安全な農産物が届けられています。

グリホサート、ネオニコチノイド系農薬など新しい問題は？

ところが最近、農薬について気になる記事を見かけます。まずは除草剤のグリホサート。2015年、国際がん研究機関 (IARC) が「グループ 2A (ヒトに対しておそらく発がん性がある)」に分類し、問題となりました。しかし、2016年に食品安全委員会は「発がん性は認められなかった」とし、国連のFAO/

今月のテーマ

農薬はなぜ嫌われる？

WHOの専門機関も「グリホサートがヒトに対して発がん性のリスクになるとは考えにくい」と発表しています。発がん性と聞くと心配ですが、適切に使用されれば人の健康上の問題は無いことが確認されています。

もう1つ、殺虫剤の一種であるネオニコチノイド系農薬は、ミツバチなど周辺環境への悪影響が心配されています。日本ではEUほどの被害はこれまで報告されていないものの、調査が継続して行われています。令和3年度からは、農林水産省で農薬の再評価も行われる予定です。

なお、日本ではネオニコチノイド系農薬は水田でカメムシ防除のために多く用いられます。カメムシがつくとコメが黒くなり、この粒が少しでも混ざると規格が下がるため、農家は使わざるを得ない状況です。この規格も今後見直しが検討されており、農薬使用の減少につながることも期待されています。

農薬はこれまでも登録の際に環境影響も調べられてきました。より安全で環境にやさしい農薬が使われるように、常に確認や再評価が行われ、厳しく規制されていることも知っていただきたいと思います。

執筆者 PROFILE

消費生活コンサルタント
もりた まき
森田 満樹



消費者団体(一社)Food Communication Compass 代表。消費生活コンサルタント、東京海洋大学非常勤講師。食品安全、食品表示、消費者問題などで、講演や執筆活動を行っている。国の審議会・検討会は、消費者庁・食品表示一元化検討会委員、食品添加物制度に関する検討会委員、厚生労働省・食品用器具及び容器包装の規制に関する検討会委員など。著書は『新しい食品表示がわかる本 (女子栄養大学出版部)』『食品表示法ガイドブック (ぎょうせい)』など。



今月のテーマ

高齢者をトラブルから守ろう！ ～見守りで消費者被害の防止を～

暮らしに潜む消費者トラブルから身を守るための情報を、京都府消費生活安全センターからお届けします。



消費者庁 消費者ホットライン188 イメージキャラクター「イヤヤン」

65歳以上の高齢者に関する消費生活相談件数は、全国で2019年は約30.8万件と、過去10年間で2018年に次いで2番目に多くなりました。中でも85歳以上の相談件数は、2010年に比べ約2倍となっています(令和2年版 消費者白書)。

高齢者の消費者被害の特徴

◆被害に遭っていることに気づかず、契約を繰り返して被害が深刻化したり、被害に遭ったと思っても、家族に迷惑をかけたくない、自分自身を責めて回りに相談しないなど、**周囲が気づくのが遅くなる。**

◆「老後の資金を少しでも増やしたい」、「いつまでも健康でいたい」、「話し相手がいなくて寂しい」といった不安に対して、悪質事業者は**言葉巧みにこれらの不安をあり、親切にして信用させて大切な財産を狙っています。**

「あれ？」と思ったらさりげなく声かけを

例えば、高齢者の自宅の様子や、自宅を訪問すると

見慣れない車が長時間駐車している

営業マンらしい人と、車に乗って出かけていく姿を見かける

部屋に見慣れないダンボールや新しい商品が多くある

不自然なリフォーム工事がされている



家族や周囲の人が高齢者のトラブルや変化に気づいた時は、世間話をしながら何気なく尋ねてみましょう。その際は、「一緒に考えましょう」「相談できる方はいますか？」など、高齢者に寄り添った声かけを心掛けてください。

日ごろから高齢者の様子に気をつけることが大切です。離れて暮らしている場合は、なるべく頻りに連絡を取っておき、帰省の際などには不審な書面や、大量の商品、困っている様子などが無い確認するようにしましょう。

消費者ホットライン (全国共通)
(お近くの消費生活センターにつながります)
いやや!
188
(局番なし)

京都府消費生活安全センター

消費生活相談 ☎075-671-0004
9:00~16:00 (平日) ※年末年始休

土日祝日相談 (緊急のみ) ☎075-257-9002
10:00~16:00 (土日祝) ※年末年始休

京都生協 検査・点検報告

残留放射性物質の検査の詳細な内容を京都生協ホームページで公開中!

平山農園 産直「たねなし柿」「富有柿」「メスレー」

産直「たねなし柿」「富有柿」「メスレー」を出荷する平山忠央さんの施設を点検しました。園地のある和歌山県かつらぎ町は和歌山県の北東部、フルーツの栽培が盛んな町です。秋には柿を、初夏にはメスレー (甘みが強いすももの品種) を家族だけで栽培し、店舗に産直商品として出荷しています。いずれも農薬の使用は地域の一般的な基準より約40%減らして栽培しています。作業場や資料・記録などで、安全に栽培・出荷が行われていることを確認しました。



▲柿の園地 (9月21日時点)。色づきは、これからです。



▲柿は炭酸ガスで渋抜きします。間違えて渋い柿を出荷しないよう色分けしたコンテナを使います。

(9月度検査結果)

農産物残留農薬検査	6 検体	
米の残留カドミウム検査	0 検体	
卵質検査	1,059検体	
鶏卵サルモネラ検査	12検体	
微生物検査	店舗調理商品	117件
	京都生協コープ商品	33 件
	その他	79 件
京都協同食品プロダクト(株)商品	5 件	
残留放射性物質検査	1 件	

京都生協の点検項目・検査基準に照らし安全に供給できることを確認しました。



京都生協ホームページでも産直商品、京都生協コープ商品の産地・工場点検の様子をお知らせしています

